

試練とは・・・

医療法人臨生会 吉田病院 理事長 吉田 肇

85歳になる私の母は、自他共に認める根っからの自民党員なので、国会議員をはじめ、いろいろな「先生方」が母のところへ挨拶に訪れます。母はそんな時、決まって「明日選挙になっても大丈夫と思える位、日頃から支持者をまわって票固めをなさい。努力の積み重ねこそが、いざという時に力を発揮するのですから」と申します。同じことを私も50年以上前から聞かされ続けて今日に至っておりますが、幸いなことに、ここ数年、母の矛先は私ではなく孫である私の息子に向かうようになり、私は大いに助かっている次第です。

議員にとって何年かに一度の選挙は試練の時、子供にとっての試練はやはり受験か、などと考えているうちに、「先生方」の選挙も子供の受験も「当落」又は「合否」が決まるまではわからない、日々の努力がものを言う、当や合なら万歳だが、落ちれば次のチャンスまで「浪人の日々」というのも同じ。

だから母も50年前の私を叱咤激励するのと同じことを「先生方」にも言っているのだなあと、思い至りました。

今回の参議院選では、自民党大敗の原因として、年金問題、大臣の不祥事など数々挙げられてはありますが、大局から見るとそうだとすると、個々にはやはり個々の問題があって、当落を決めたと思はれます。浮世の義理も様々ありながら、私は医師会長の立場から、武見敬三氏を応援してい

たのですが、残念ながら落選してしまいました。いや、立場から言えば落選させてしまった、と言うべきでしょう。そう、選挙の試練は受験と違って本人の努力はもとより、「支持者の努力」も欠かせないからです。これが受験との大きな違いです。

武見敬三氏が私の母のところへ来て気合を入れてもらっていたら、あと1万票は増やせていたかも知れませんが、来てもらえなかった分、私が母の教えに従って「日頃からの地道な努力」をするべきであったと、今頃反省しています。医療関係者にとって、武見氏の落選は大きな損失ですし、皆さんに支持をお願いしながら本当に申し訳ないことを致しました。落選の原因は武見氏の場合もいろいろありますでしょうが、私のような末端医師会長の草の根作戦もあなどれなかったことは票差を見ても明らかで、「あと一步だったのに」と慚愧にたえないところも、かつての受験にそっくりです。武見氏には今後三年間の地道な努力をお願いし、私も「三年後を明日と思って」次に臨む所存です。

「試練」とは「自分の実力や心の強さをためすこと」の他に「きたえることそのものの苦難」という意味もあるそうです。三年間の試練に耐えて、いざ時に臨め、と私も息子に言わなければならぬのかなあ、と思う中三の父親です。